

わたしたちの価値観

AREグループウェイ

Purpose

なぜ存在するのか？

この手で守る自然と資源

～限りある資源と地球環境を守り、
持続可能な世界の実現に貢献します～

Goals

何をするのか？

地球規模の課題解決と
企業価値向上の両立

すべてのステークホルダーから
期待される事業成長と利益の実現

世界から信頼される
コーポレートブランドの確立

Values

どう行動するのか？



人を大切に

わたしたちは、安全と健康を何よりも優先し一人ひとりを尊重します



挑戦しよう

わたしたちは、失敗を恐れずチャレンジし、未来に革新を起こします



自ら考えよう

わたしたちは、現場・現物・現実と全体最適を拠り所として自ら考え行動します



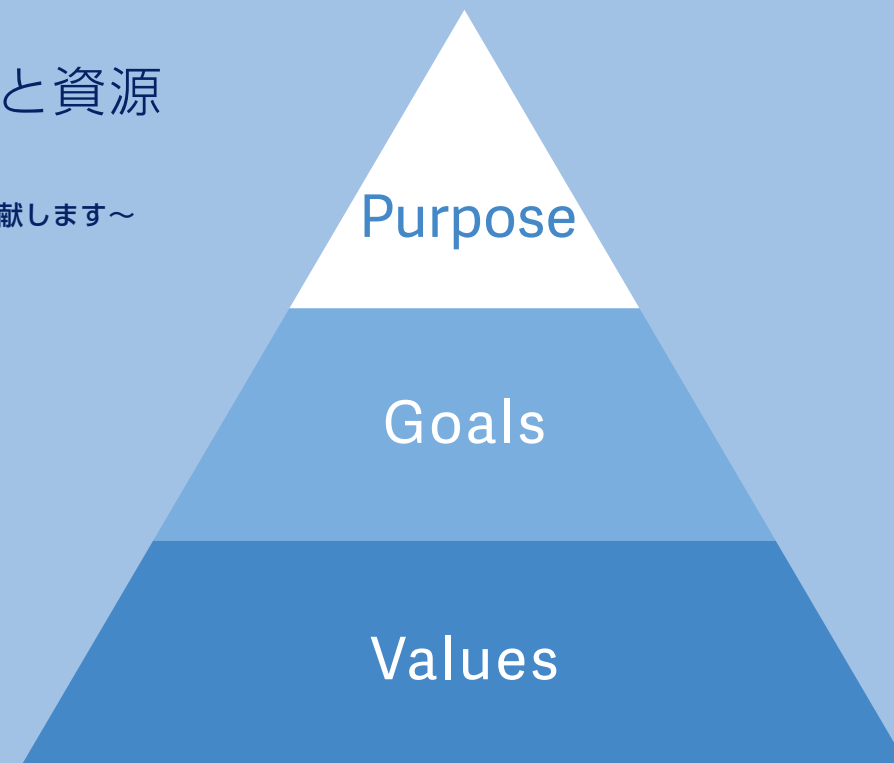
追い求めよう

わたしたちは、より良い技術・品質・サービスを追求します



学び続けよう

わたしたちは、自己の成長と組織の発展のために学び、進化していきます

脈々と流れるDNAを、
今日を生きる私たちの原動力に。

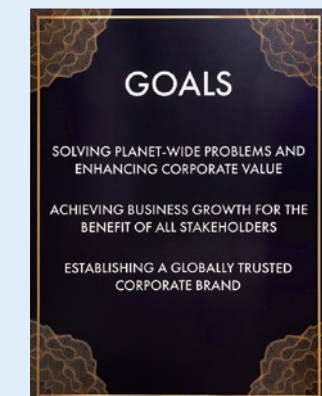
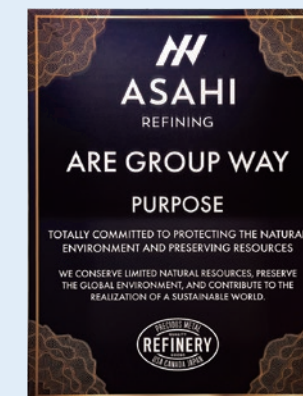
AREグループウェイは、1993年に明文化された経営理念および行動指針を起源とし、その後2012年の「アサヒウェイ」の制定や幾度かの改定を経て、2024年に現在の姿となりました。当初の経営理念や行動指針は、創業以来当社グループが育んできた企業文化や価値観を言葉として表現したものでした。その意味で、AREグループウェイは1952年の創業以来、従業員一人ひとりの思いや行動によって脈々と受け継がれてきた企業精神そのものといえます。

一方で、2024年の改定では、受け継ぐべき精神は守りながらも、表現を大きく刷新しました。背景には、2023年の大型組織再編や社名変更、中長期ビジョンの策定に加え、中途採用者比率の上昇や事業のグローバル化、新たな価値観を持つ世代の台頭などの環境変化があります。とりわけ社員の行動指針であるバリューズについては、多様な人材が活躍する当社グループだからこそ、誰もが共感を持って口にでき、社員同士が呼び掛け合えるような五つのシンプルで力強い言葉に集約しました。

表現をシンプルにした分、一人ひとりの解釈にばらつきが生じるおそれがあったため、改定後には「AREグループウェイHandbook」と題した小冊子を全社員に配布し、改定の背景や各バリューに込められた意図や思いも含めた浸透を図りました。

北米では、AREグループウェイを記載したカードを全社員に配布するとともに、各事業場の随所に看板を掲示し、日常業務のなかで自然と目に触れられるようにしています。また、生産部門のマネージャーが毎朝行うミーティングでは、「ARE Group Way Share」と称したバリューズ実践事例の共有を継続しており、すでに習慣として定着しています。

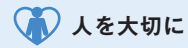
日本では2026年春に目標管理制度および評価制度を刷新し、行動（コンピテンシー）評価にAREグループウェイのバリューズを組み込みました。日々の業務で重視するバリューを自ら宣言し実践する仕組みとしており、AREグループウェイが行動レベルの深さにまで浸透していくことを期待しています。



わたしたちの価値観

わたしたちにとってのAREグループウェイ

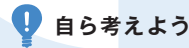
AREグループウェイは、当社グループが目指す姿を実現するための共通の価値観として、社員一人ひとりの日々の業務に根づいています。なかでもバリューズは、判断や行動の拠り所として、社員がそれぞれの職場で実践を重ねるための指針です。そこで、AREグループウェイのバリューズをどのように受け止め、日々の業務に活かしているのか、さまざまな職場で働く社員の声を集めました。



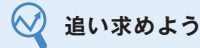
人を大切に



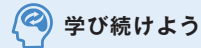
挑戦しよう



自ら考えよう



追い求めよう



学び続けよう



アサヒプリテック株式会社
仙台営業所
氏家 浩樹



当社は長い歴史のなかで多くの課題を乗り越え、事業成長を遂げてきました。その背景には、時代ごとに多様な人材が関わり、活躍し、想いが継承されてきた事実があります。「人を大切に」は、個々の考えを尊重し、自立した挑戦を後押しする文化であり、現在の成長を支える原動力だと感じています。



アサヒプリテック株式会社
福岡営業所
柴田 芳憲



私は入社以来、お客様との対話や社員同士の連携を通じ、多くの学びを得て自身の成長を実感してきました。これからも、私が意識するバリュー「人を大切に」を行動の軸とし、相手を尊重した対話を重ね、信頼を基盤とした良好な関係づくりに努めていきたいと考えています。



アサヒプリテック株式会社
リファイニングセンター
玉井 啓介



私が大切にしているのは「人を大切に」です。工場運営においては、安全と健康を何よりも優先し、現場の声や小さな気づきを丁寧な受け止めることを心掛けています。一人ひとりが安心して働ける環境づくりを通じて、今後も品質と信頼のさらなる向上につなげていきたいと考えています。



アサヒプリテック株式会社
宝飾事業部
三園 彩子



私が日々意識しているのは「人を大切に」です。二人の子どもを育てる母である私は子どもとの時間を大切にするため、業務改善を推進し短い時間で正確な資料の集計・作成を心がけています。結果だけでなく手順も共有することで後輩の成長を促し、グループ全体の底上げにつながると考えています。



アサヒプリテック株式会社
北関東営業所
宮杉 義之



「人を大切に」することは、組織を支える最も重要な姿勢です。社員一人ひとりが会社の顔であり、かけがえのない財産です。それぞれが異なる個性や強みを持ち、その「自分の武器」をどのように活かすかによって、組織の力は大きく変わります。だからこそ、社員同士はもちろんのこと、お客様に対しても敬意を持ち、互いを尊重しながら日々の業務に向き合うことが不可欠です。人を大切にする姿勢を土台に、誰もが力を発揮できる組織づくりを目指していきます。



アサヒプリテック株式会社
電子・触媒事業部
井鍋 健太郎



「挑戦しよう」のバリューに力をもらっています。新しいことに取り組み際は迷いが出ますが、この言葉が私の背中をそっと押し、やってみよう前に進む勇気をくれるからです。業務で迷い立ち止まったとしても、またたとえ失敗したとしても、このバリューを胸にまた一歩踏み出す姿勢を大切にしています。



アサヒプリテック株式会社
テクノセンター
高松 亮太



研究開発部員として「挑戦しよう」を軸に、新技術を現場へ実装してきました。既存の手法にとらわれず技術動向を学び、試行錯誤を重ねながら工程改善につなげる。その積み重ねを日々の業務で実践しています。



アサヒプリテック株式会社
福岡営業所
佐伯 亮太



私が日々の業務のなかで特に意識しているのは「自ら考えよう」です。変化の激しい環境のなかでも、自ら考え行動することを大切に、常にお客様に寄り添った提案を続けてきました。チームや組織の成長へ自身がどう貢献できるかを考え、周囲から信頼される存在でありたいと考えています。



アサヒプリテック株式会社
リファイニングセンター
田村 信也



私が日々意識しているのは「追い求めよう」です。製品の出荷前分析を担当しており、当社品質の高さを証明するためには正しい分析値を提供することが重要と考えています。私たちが高い品質や技術を追求することが世界から信頼されるブランドの確立につながると信じ、日々業務しています。



アサヒプリテック株式会社
坂東工場
釜堀 隼規



私が大切にしている「学び続けよう」とは、現状に満足せず学びを積み重ね、自己の成長につなげる姿勢だと考えています。生成AIによる業務品質向上の検討や、制御システム・電気計装設計を通じた自動工程の構築に挑戦し、得た学びを次の業務や改善に活かし、より良い設備立上げにつなげています。



ASAHI G&S SDN. BHD.
西尾 龍象



東南アジアの著しい経済成長のなかで、挑戦し続ける姿勢を大切にしています。私たちの挑戦は、文化や商習慣の違いを乗り越え、新たな価値をお客様に提供し、資源循環型ビジネスを拡張しています。持続可能な世界の実現に貢献していると確信しており、今後もよりグローバルに挑戦してまいります。



アサヒプリテック株式会社
テクノセンター
山口 浩司



私が身を置く技術の分野では、常識にとらわれ過ぎることなく、自身の感性を信じて自ら考える姿勢が重要だと感じています。それが常に望む結果につながるかどうかはわかりませんが、自身で考え抜いた上での結果であれば必ず何か得るものはあります。これから一人の技術者として「自ら考えよう」と思います。



アサヒプリテック株式会社
尼崎工場
岡 凌平



私にとって「学び続けよう」は、学んだことを現場の改善として形にすることです。知識を得ただけで終わらせず、実際の業務で使って結果を確認し、想定と違えば原因を特定して学び直します。学びと実践を重ね、現状にとどまらず改善を続けることで、他の業務にも活かせる提案にもつながります。



アサヒメタルファイン株式会社
坂東サイト
桐藤 万裕



私が今、注目しているのは「学び続けよう」です。以前は英語のような知識やスキルの習得を連想していましたが、最近では社内や家庭での立場の変化を通じて、「人との関わり方」を意識するようになりました。他者のフィードバックを受け、自発的に自分が変わることも「学び」と捉えています。

創業の原点と価値創造の歩み

70年を超える、「挑戦しよう」の軌跡

挑戦の原点、朝日化学研究所からの出発

1952 大阪市城東区に「朝日化学研究所」を創立
写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始
1964 株式会社へ組織変更

1952年、写真定着液からの銀回収を手がけた朝日化学研究所として始まり、電解法による効率的で高純度な銀のリサイクルを実現。写真・医療用フィルムの需要拡大を背景に、リサイクル事業の基盤を築き、事業を大きく拡大しました。



環境事業への挑戦、全国へ広がるネットワーク

1972 写真廃液の無害化処理施設を神戸工場に設置
1974 福岡営業所開設
以降全国各地へ営業所を展開
1975 小型電解回収装置「プラタ」を開発
神戸市の産業廃棄物中間処理業許可を取得
(有害物を含む写真廃液無害化処理)

1970年代の公害規制強化を受け、1975年に日本で初めて有害写真関係廃液の無害化処理ライセンスを神戸市から取得。環境保全事業へ本格参入しました。分析・計量技術を磨き、産業廃棄物処理を拡大。全国に営業拠点を展開し、循環型社会の実現を先駆けて担う存在として成長しました。

「プラタ」シリーズ



無害化処理施設



新領域への挑戦、多角化と海外進出

1978 神戸市東灘区に本社社屋を竣工
環境計量証明事業所の登録
1982 歯科分野からの貴金属リサイクル事業を開始
1984 メッキ分野からの貴金属リサイクル事業を開始
1986 電子・宝飾分野からの貴金属リサイクル事業を開始
小型電解式金回収装置「ジパング」を開発
1990 写真廃液以外の環境保全事業を開始
1994 マレーシアにASAHI G&S SDN. BHD.を設立

既存の銀リサイクルに加え、歯科・宝飾・電子など、幅広い分野へ対象を拡大し、多角化を推進。さらにアジア市場に進出し、将来のグローバル展開への足がかりを築きました。この時期に培った柔軟な発想と技術革新への挑戦が、その後の飛躍的な成長へつながりました。

精密洗浄事業 酸剥離設備



次の舞台へ、上場とグループ経営の強化

1997 アサヒプリテック(株)に社名変更
1998 本社機能を神戸市中央区に移転
研究開発施設テクノセンターを神戸市西区に開設

1999 店頭市場に株式公開
2000 東京証券取引所第二部に株式上場
2002 東京証券取引所第一部に株式上場
2003 自動車触媒事業を開始
2006 韓国アサヒプリテック(株)を設立
2009 持株会社アサヒホールディングス(株)を設立
2011 Eスクラップ事業を開始
精密洗浄事業を開始

1999年に株式を公開し、2000年に東証二部、2002年には東証一部へ上場を果たしました。資本市場からの信頼を背景に、ガバナンスや技術力を強化するとともに、自動車触媒や精密洗浄など新分野に進出。環境事業会社の設立を進め、2009年には持株会社制へ移行し、グループ経営の基盤を確立しました。

1999年株式公開



飛躍の時代、新たな理念とグローバル展開

2012 アサヒウェイを制定
東京証券取引所ESG銘柄に選定される
2015 監査等委員会設置会社へ移行
指名委員会と報酬委員会を設置
業績連動型株式報酬制度を導入
英ジョンソン・マッセイ社から北米(米国・カナダ)の金・銀精錬事業を買収し、Asahi Refining USA Inc.とAsahi Refining Canada Ltd.を設立
IFRS(国際会計基準)を適用
2016 新株式発行等による増資を実施
2017 アサヒウェイを全面改訂
2018 Asahi Depository LLCを設立
2021 DXE(株)を設立
2022 東京証券取引所プライム市場に移行
茨城県坂東市に坂東工場竣工
2023 AREホールディングス(株)に社名変更
アサヒメタルファイン(株)を設立
2024 リテール事業を開始
AREグループウェイを制定
産業廃棄物処理事業を再編((株)レナタスと株式交換を実施)
アサヒプリテック(株)がAsahi Pretec (Thailand) Co., Ltd.を設立
アサヒプリテック(株)がAsahi Pretec India Private Limitedを設立
2025 茨城県坂東市に坂東工場第二期竣工

2012年に「アサヒウェイ」を制定し、社員の価値観を明文化。2015年には北米の金・銀精錬事業を買収し、世界的なリサイクル・精錬企業へと飛躍しました。2023年には社名を「AREホールディングス」に変更し、2024年に新たな経営理念「AREグループウェイ」を策定。次の成長ステージへの基盤を強化しました。

新しいロゴマーク

ARE
Think Circular



坂東工場

未来へ挑む、循環型社会への挑戦

わたしたちのビジネス

AREホールディングスは、「この手で守る自然と資源」というパーパスのもと、「AREグループウェイ」を企業理念として掲げています。挑戦を重んじるこの理念と、長年培った強みを基盤に、持続可能な価値創造と安定したビジネスモデルを実現しています。事業を通じて、産業の持続的な発展とCO₂削減を両立し、循環型社会の構築に貢献しています。

マテリアリティ

貴金属リサイクルの拡大

人・社会・環境にやさしい貴金属供給

CO₂排出量の削減

ワークライフバランスとダイバーシティの基盤充実

SDGs活動の奨励・支援

貴金属事業



貴金属リサイクル事業

さまざまな分野から発生する貴金属含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・プラチナ・パラジウムなどを、現代のものづくりに欠かせない貴金属製品として再生しています。

競争優位

高精度な分析

+

最高効率の回収と精錬

+

日本全国をカバーする営業ネットワーク

北米精錬事業

米国およびカナダにおいて主に鉱山由来の金・銀の精錬事業を行っています。また金融サービス、付加価値の高い製品製造、米国貴金属倉庫での貴金属保管を行っています。

競争優位

高精度な分析

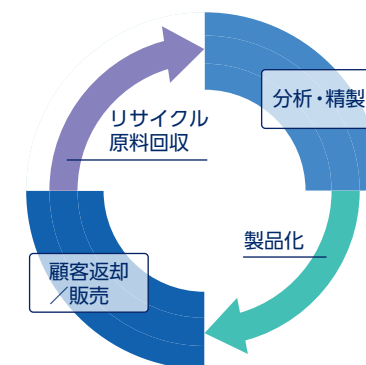
+

北米最大規模の精錬設備と顧客基盤

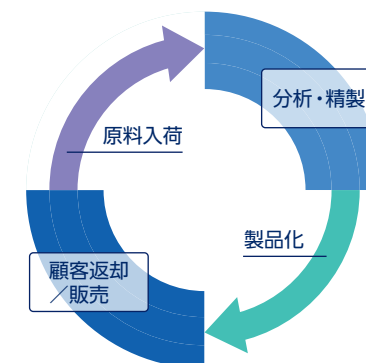
+

精錬事業を土台とした多角的な収益源

ASAHI PRETEC ASAHI METAL FINE



ASAHI REFINING



事業を通じた価値提供

循環型社会の構築

産業の発展

CO₂削減

貴金属の安定供給

高付加価値製品・サービスの提供

取引の円滑化

環境保全事業



産業廃棄物処理業界の各事業者に向けて、産廃処理業務効率化のデジタルプラットフォームを提供しています。

競争優位

長年培った産業廃棄物処理の豊富なノウハウ

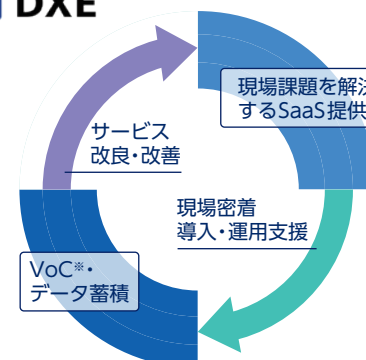
+

産廃業界DXに特化したデジタルサービス提供

+

取引データ蓄積によるDXサービス基盤構築

DXE



※VoC: Voice of Customer (お客様の声) の略

事業を通じた価値提供

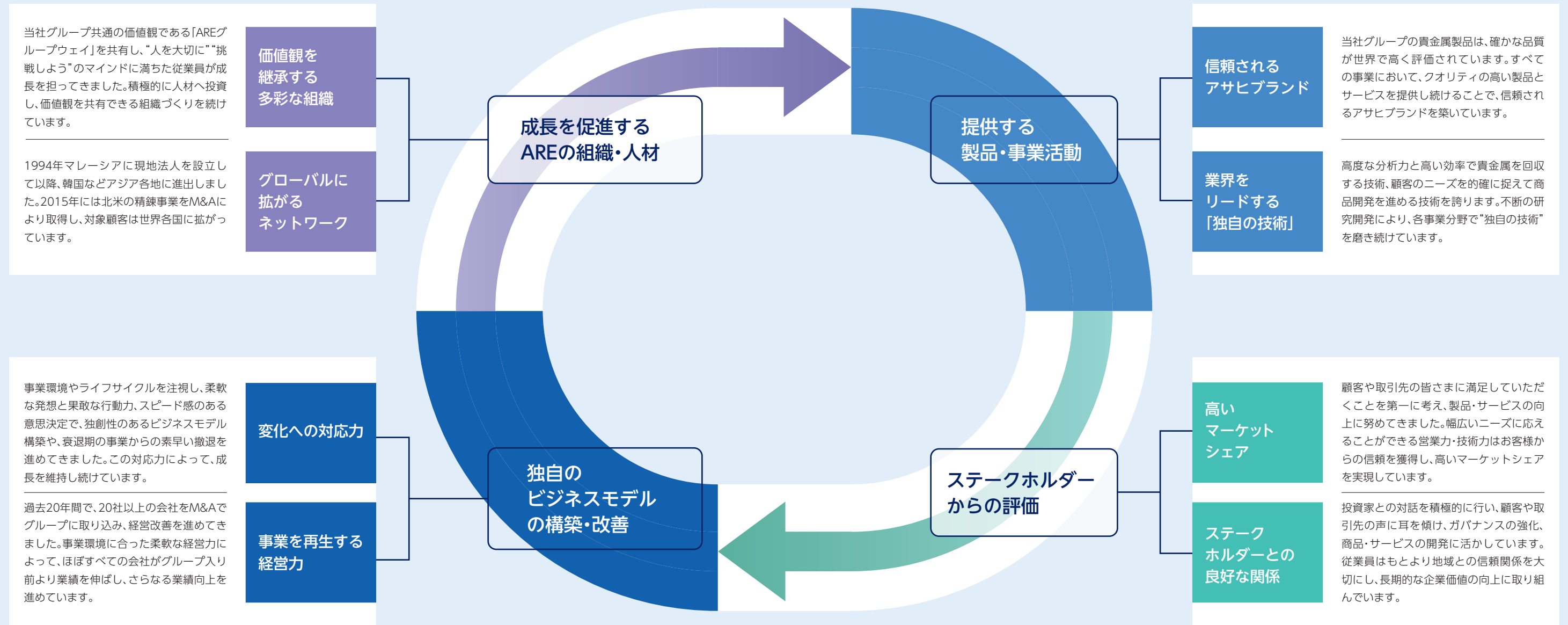
廃棄物処理のDX化による効率化

人手不足への対応

コンプライアンスの強化

わたしたちの強み

AREグループの強みは、長年培ってきた独自の技術力や世界から信頼されるブランド力はもちろん、それらを生み出し、磨き続けてきた組織・人材にあります。自ら考え、挑戦を続ける企業文化のもとで築き上げてきた技術、ネットワーク、経営力、そして変化への対応力が、持続的な成長を支えています。



自ら考えよう

当社の事業は写真定着廃液からの銀回収から始まりました。銀精錬の品質の高さは当時から当社の強みであり競合との差別化点でした。その高度な品質は、「安易に外注に任せられるのではなく、とにかく自分たちで徹底的に考え、できるまでやり抜く」という従業員らの信念や姿勢を原動力とした、精製方法や設備の開発および改良の積み重ねによるものです。現場・現物・現実を見定めた上で「自ら考え行動する」ことを大切にする企業文化は脈々と受け継がれ、多種多様な資材から貴金属を高効率かつ高純度でリサイクルする当社独自の技術を今も支えています。

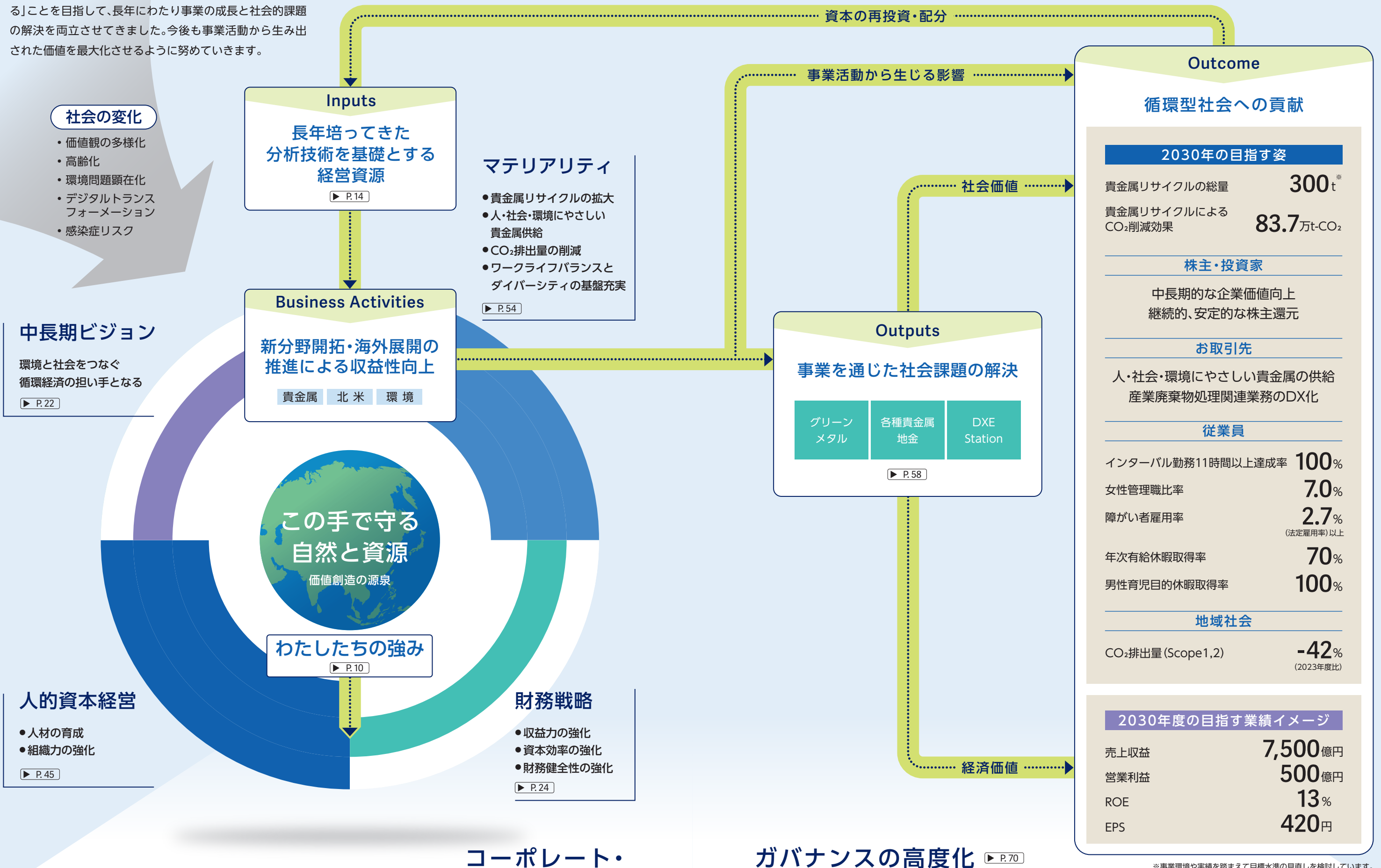


追い求めよう

AREグループウェイのゴールズの一つに掲げている「世界から信頼されるコーポレートブランドの確立」は、技術・製品・サービスといった当社すべての事業活動における質への「飽くなき追求」によって成り立っています。貴金属リサイクル分野における技術の質とその技術を土台にした製品やスピードの質は世界最高レベルであると自負しています。加えて顧客へのサービスも当社の大きな強みです。信頼と実績を有する全国営業ネットワークを基盤に、新たに貴金属のBtoCビジネスの拡大に乗り出すなど、お客様へのより良いサービス提供を常に追求しています。

価値創造プロセス

わたしたちは「環境と社会をつなぐ循環経済の担い手となる」ことを目指して、長年にわたり事業の成長と社会的課題の解決を両立させてきました。今後も事業活動から生み出された価値を最大化させるように努めていきます。



※事業環境や実績を踏まえて目標水準の見直しを検討しています。

6つの資本

長年培ってきた分析技術を基礎とする経営資源

わたしたちは、社会課題の解決と企業価値向上の好循環を実現するため、事業活動を通じて新たな価値を創出しています。その価値創出を支える人材、知的財産、事業基盤、財務基盤など、持続的な成長を支える6つの資本についてご紹介します。

		財務資本 	製造資本 
当社資本の特徴および強化に向けた取り組み	特徴	AREホールディングスは、世界の大手貴金属精錬企業のなかでは数少ない上場企業です。東京証券取引所プライム市場に上場し、IFRSに基づく情報開示を行っており、国内外の金融機関・取引先から高い信用力を獲得しています。この信用力は、貴金属という高額在庫を必要とする事業において、安定的な資金調達を可能にする重要な基盤となっています。	国内では、最新鋭の貴金属リサイクル・精製拠点である坂東工場をはじめとし、多様化・複雑化するスクラップ原料に対応できる生産体制を構築しています。海外では、北米最大規模の金・銀の精錬能力をもつAsahi Refiningを有し、鉱山由来原料からリサイクル原料まで幅広く受け入れ可能な体制を持ちます。また、アジア4か国においてスクラップの回収を行い、一部の国では現地処理体制を築いています。
	強化の取り組み	AREホールディングスは、社債発行や金融機関からの調達を組み合わせた多様な資金調達を行い、財務規律を保ちながら貴金属リサイクル事業や北米精錬事業における設備投資など成長投資を継続しています。	国内外での継続的な設備更新・増強により、処理能力・効率・品質の高度化を図っています。特に北米では、精錬プラットフォームを基盤に倉庫・トレーディングなど付加価値サービスを展開し、製造資本を収益拡大に結び付けています。
主な投入資源		資本合計 2,306 億円	国内 5 つの工場 7 つの海外事業会社
価値提供において活きる強み			
変化への対応力			
業界をリードする「独自の技術」			●
価値観を継承する多彩な組織			
ステークホルダーとの良好な関係			
事業を再生する経営力		●	
信頼されるアサヒブランド			●
グローバルに広がるネットワーク			●
高いマーケットシェア		●	●
事業活動が資本に与える影響		<u>財務的な成長</u> AREホールディングスは、貴金属事業と環境保全事業を両輪としたビジネスモデルにより、貴金属相場変動の影響を受けつつも、取扱量の拡大とグローバル展開（特に北米精錬事業）を通じて財務的成長を実現しています。 中長期ビジョンのもとで成長投資（設備投資・M&A）と財務健全性の両立を図り、安定的なキャッシュ・フロー創出と企業価値向上を目指しています。 これにより、財務資本は単なる結果ではなく、次の成長投資を生む「循環する資本」として機能しています。	<u>スクラップ&ビルド</u> AREグループは、国内外に多数の回収・精錬・処理拠点を有し、事業環境や技術進化に応じて事業のスクラップ&ビルドを継続的に実践しています。特に貴金属事業では、電子スクラップや触媒など多様化する原料に対応するため、処理プロセスの高度化や生産効率の改善を目的とした設備投資を実施しています。 これにより製造資本は「量」ではなく、「柔軟性・競争力」を高める方向で強化されています。

人的資本 	知的資本 	社会関係資本 	自然資本 
全国に広がる営業拠点で働く200名を超える営業人員をはじめとし、技術、管理等多様な分野の多様な従業員が協力し合い、自ら考えながら、生き活きと挑戦し、革新を追い求めています。	70年以上にわたり蓄積された多様なスクラップからの貴金属回収、分析、精製ノウハウが当社の重要な知的資本となっています。現場で磨かれたプロセス改善や研究開発活動の積み重ねにより、多様な原料からでも正確に貴金属含有量を把握できる高い分析能力とそこから貴金属を取り出す高い回収能力を有しています。	LBMA（ロンドン地金市場協会）およびLPPM（ロンドン・プラチナ・パラジウム市場）認定精錬業者として国際的に高い信頼を得ています。また、OECDガイダンスに基づく「責任ある貴金属管理」を実践し、鉱山（ASM＝零細・小規模鉱業を含む）との適切な関係構築を重視しています。	AREホールディングスでは環境負荷の低いリサイクル貴金属の供給を行っています。都市鉱山からの回収を進めることで、CO ₂ 排出や自然破壊の抑制に直接貢献しています。当社が主力とする湿式精錬法は、エネルギー消費が少ない反面多くの水を使用します。当社の各工場は水ストレスの比較的小さい地域に立地しています。
OJTを中心に、業界知識・分析知識を備えた人材の育成を進め、人的資本の質的向上を継続しています。ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進や健康経営を基盤に据え、多様な人材がそれぞれ自分らしく仕事と生活全体との調和を図りながら働ける環境整備に取り組んでいます。	分析技術・操業技術の継承と高度化を進め、対象スクラップの拡大と回収率向上を両立させています。これらは、特許や「暗黙知」の蓄積となり、参入障壁として競争優位の強化につながっています。	サプライチェーンの透明性確保や第三者監査への対応を通じて、顧客・市場・地域社会との信頼関係を深化させ、ブランド価値の向上につなげています。	製造プロセスの省エネルギー化、水資源使用量の削減、CO ₂ 排出量削減目標の設定を通じて、自然資本への負荷低減を進めています。「環境配慮型貴金属」の提供を通じて、顧客の脱炭素・ESG対応も支援しています。
国内 19 の営業所と 200 名を超える営業人員 従業員 998 名	非開示ノウハウ/特許 リサイクル技術／精錬技術／分析技術	責任ある貴金属管理体制 LBMA, LPPM, RJC 他、各種認証	水使用量 109,944 m ³
●	●		
●	●	●	
●			
●		●	
●	●	●	
●	●	●	●
●			
●		●	
<u>ノウハウを持った営業員の成長、技術者の成長</u> AREホールディングスは、貴金属含有スクラップの確保において顧客密着型の営業力を競争優位の源泉と位置づけています。日本・海外で活躍する営業員が、素材特性や価格変動を理解した上で顧客に最適提案を行えるよう、OJTや専門知識教育を通じた成長を支援しています。また、技術者についても、分析・精錬・環境処理の分野で長年培った技術を次世代へ継承・高度化することで、人的資本の質的向上を図っています。	<u>より広い範囲のスクラップからの回収を可能とする技術の蓄積</u> AREグループの中核的な知的資本は、多様なスクラップ原料から貴金属を高精度で回収する分析・精錬技術です。電子基板、歯科材料、触媒、宝飾品など原料が高度化・複雑化するなかで、回収対象の拡大を可能にしてきた技術の蓄積が、参入障壁の高い事業構造を形成しています。		
		<u>ブランドの積み上げ、地域社会からの信頼、人・社会・環境にやさしい貴金属供給</u> AREホールディングスは、長年にわたり適正処理・トレーサビリティ・法令遵守を徹底してきたことで、顧客・地域社会・行政からの信頼を獲得してきました。また、「人・社会・環境にやさしい貴金属」の提供を掲げ、責任ある貴金属管理やサステナブルな調達を進めることで、ブランド価値の積み上げにつなげています。これらの社会関係資本は、新規顧客獲得や長期的な取引継続を支える重要な無形資産となっています。	<u>水資源の使用</u> AREグループの精錬・処理プロセスでは水資源やエネルギーを使用する一方で、使用量削減や再利用、省エネルギー化に取り組んでいます。北米精錬事業では、現地の環境法規制を遵守した操業に加え、環境負荷低減や自然資本保護を意識した運営が行われています。